

昨日は全国的に今季一番の冷え込みとなりましたが、今年も残りあと一月余り。あっという間に年末年始を迎えてしまいそうです。

現在会員登録数 2,511 人さま。次号は 12 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 87

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● Twitter はじめました

当財団公式 Twitter をはじめました。いろいろな情報を発信しています。

フォローしてください。 → https://twitter.com/IICLO_News

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『セブン・レター・ワード 7つの文字の謎』 キム・スレイター/作

武富博子/訳 評論社 2017年10月

対象年齢：中学生以上

あらすじ：14歳のフィンレイは母親が突如家出をしてしまい、父と二人で新しい家に引っ越したが、転校した学校では吃音のために同級生オリヴァーにいじめられていた。フィンレイは「スクラブル」という英単語を作るゲームが得意で、インターネット上でゲーム友だちを作るが、その正体は不明。学校でパキスタン系の少女マリアムにスクラブルを習い、スクラブ

ルの全国学生大会に出場することになる。

T：この作品は三つのストーリーラインが巧みに織り込まれています。一つ目は、主人公のフィンレイが吃音という障がいを抱え、いじめと対峙するという筋、もう一つはフィンレイがスクラブルの全国大会に出場するという筋、三つめは、なぜ、母親は突然いなくなったのかという謎解きです。

Y：この三つの筋には二人の主要な脇役が登場します。一人は、ヘッドスカーフをかぶっていることでフィンレイと同様にオリヴァーに執拗ないじめを受けるマリアム。スクラブルのパキスタン代表選手の経験を持ち、フィンレイにスクラブルの戦術を教えますが、それは、フィンレイに世の中を生き抜く術を教えることにもなります。

T：もう一人は、フィンレイとインターネット上でスクラブルをプレイするアレックス。フィンレイは心の友が出来たと思い、母親の失踪について打ち明けますが、結末でアレックスの正体がわかる仕掛けになっています。

Y：妻を失い、息子とうまく付き合えない父親の描写も説得力がありました。毎日ベイクドビーンズとフライドポテトばかり食べる食事はみじめな毎日の繰返しを想像させました。

T：吃音のフィンレイがスクラブルというゲームをすることで、「ぼくが言葉に打ち負かされているとはいえ、べつの方法で言葉を克服したことを知ってほしい。」(p.80)と母親に対して思うところが、印象的でした。

Y：いじめっこが事故にあったり、マリアムが言語聴覚士になりたいと思っていたり、やや出来すぎの部分はありますが、全体としてまとまりがあり、一気に読むことができました。

T：最近、翻訳作品で、障がいのある子どもや母親が出ていく子どもを描いた作品が何冊か出版されていますが、その中でも興味深く読みました。

Y：多様な子どもや家庭環境を描いた作品が出版され、子どもたちの心の声が言葉化されているのを読むと、これらの本をぜひ、子どもたちに届けたいと思います。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第27回「月夜のでんしんばしら」(その2)

軍隊化される電信柱が寓意するもの

前回に続き、「月夜のでんしんばしら」を取り上げます。童話集『注文の多い料理店』に収録された作品で、〈九月一四日〉の制作日付が付されています。

九日の月がかかり、雨を予兆させるうろこ雲が空いっぱいに広がる秋の夜。少年・恭一は〈ぞうりをはいて、すたすた〉鉄道線路の横を歩いていました。〈鉛色の月光〉(新刊案内)が降り注ぎ、〈罰金〉〈なぐり殺され〉るという異様な雰囲気は恭一を支配するなかで、不思議なことが起こります。

規則正しく立ち並ぶ電信柱が突然、〈ドッテドッテテ〉と一斉に北へ行進しはじめたのです。その電信柱が得意げに歌う昔風の軍歌では、まず〈はやさ〉と〈きりつ〉が強調されます。

「ドツテドツテ、ドツテド、／でんしんばしらのぐんたいは／はやさせかいにたぐいなし／ドツテドツテ、ドツテド／でんしんばしらのぐんたいは／きりつせかいにならびなし。」

〈ベーリング市まで続く電柱の列〉(新刊案内)ともあるように、当時のシベリア出兵がベースにあるとも言われる本作。膨大な電信柱を規律が求められる軍隊になぞらえ、〈ドツテドツテ〉と行軍する様子は何ともユニークであり、また異彩を放っています。

電信柱が運ぶ電信とは電気通信のことであり、その頭としての電気総長なる人物も登場。恭一を驚かせますが、電気通信を活用した近代システムは賢治が生きた時代に急速に普及したものでした。鉄道・電話・電気などを含め、こうしたシステムが人々のくらしを根本から変え、より合理化・効率化が求められる社会体制を構築していきますが、それに伴って人々が国家の管理体制に組み込まれていく様子を指摘するのは松田司郎です。電信柱が奏でる軍歌には〈その勇ましさ、カッコよさの裏にはりがねで堅く結ばれていく民衆の悲しさ〉が寓意されていると言います(「月夜のでんしんばしら」『宮沢賢治大事典』2007年)。

こうした見方に加えて、北へ向かう軍隊＝電信柱は、若き日に徴兵検査を受け、まさにシベリア出兵と彼の地での死を覚悟した賢治自身の姿と重なります。ユーモア溢れる筆致で軍歌や登場人物が描かれる一方で、どこか不安・不穏が恭一を取り巻いているのは、物語の底部に流れる時代とそれに翻弄される賢治をあらわしているようです。(ペ吉)

(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 87

その11 さまざまなご質問にお答えします(5) おはなし会について

質問：おはなし会で絵本を読む時、読み継がれてきた絵本を読むべきでしょうか。

まず、読み継がれてきた本には2つの側面があることに気づくことが必要です。幾世代にもわたって子どもたちが楽しんできた本と、広告宣伝され続けていることから人気が高い本です。

そこで、読み継がれてきた本を読む場合には、前者を選ぶべきだと思います。たとえば、『はらぺこあおむし』や『あおくときいろちゃん』などが挙げられます。これらの作品は、「生きる」ことや「人間とは何か」ということなどの普遍的なテーマが、絵とことばの相乗効果、ページをめくるという絵本らしさを活かして表現されている芸術作品です。

とはいえ、私は読み継がれた絵本ばかりを読むべきだとは思いません。現代は印刷技術が進歩し、色遣いが美しい絵本が多く出版されています。絵本とは何かという研究も進み、絵本メディアの成熟が見られます。現代社会を反映して民族、家族、友だち関係などに多様性が見られる作品も増えています。

私は「今」を生きる子どもに向けて書かれた新しい絵本を紹介することも、絵本を子どもに伝える大人にとって大切なことだと思います。評価の定まっていない絵本を選ぶのは不安な気持ちになりますが、古典的な絵本や理論書などをしっかり読んで「絵本とは何か」について学び、グループで話し合いながら、今の子どもに届ける本を考え続けることで、自分の絵本観ができてくると思います。

*次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします(6)」の予定です。
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《4》 行って来ました！

伊丹市立美術館で12月24日まで開催されている「絵本のひきだし 林明子原画展」に行ってきました。初期の作品から最新作まで約200点の原画や資料が6章に分けて紹介されています。

最初の章では、「母の友」の挿絵や初めての絵本『かみひこうき』の原画など、初期の作品が展示されています。子どもの頃から絵を習い、大学卒業後はデザイン事務所で働いていたそうで、作品の内容によって作風を変えることができる林さんの原点がわかります。

第2章は、筒井頼子さんとの作品です。最初の『はじめてのおつかい』では、編集者から構図や場面の工夫など絵本の作り方を学んだそうです。細かく描きこまれたラフスケッチも展示されています。2作目からは、林さんの姪や甥をモデルにして描かれたとの説明があり、絵とそっくりのポーズをとった子どもの写真が添えられています。

第4章は林さんが物語と絵を手がけた作品。『こんとあき』の原画の側には、頭や手足が動く、林さん自作のキツネのぬいぐるみが置かれていました。ぬいぐるみがしゃべって歩く不思議なお話なのにリアルに感じる理由がわかる気がしました。

第3章、第5章は、さまざまな技法の作品が展示されていました。色鉛筆やカラーインクで彩色されたものだけでなく、黒インクだけで描かれたもの、繊細な線で描かれたペン画、セル画のようにフィルムを重ねたもの、切り絵、色の版を複数作って刷ったものなどがありました。

最後の章は、最新作『ひよこさん』で、原画では、ひよこのふわふわ感や、おかあさんの羽の美しさをより感じることができました。優しくあたたかい世界にひたりながら帰途につきました。(K)

■—————■

【3】全国イベント紹介

■—————■

● 大人向けワークショップ

「大人も絵本で考えよう！ 子ども部屋って何をするといい？」

講 師：北浦かほる（子どもと住文化研究センター理事長）
日 時：12月2日（土）午後2時～4時
場 所：大阪府立中央図書館 2階多目的室（東大阪市荒本）
定 員：30人（申込先着順） 参加費：無料
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
協 力：特定非営利活動法人 子どもと住文化研究センター 住まいの絵本館

● 講座「金子みすゞの世界ー子ども達と楽しむ詩ー」

講 師：森井弘子（児童文化・児童文学研究家）
日 時：12月8日（金）午前10時～12時
場 所：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）
対 象：子どもの読書活動に興味のある人
定 員：70人 参加費：無料 申込み：必要
主 催：おはなし「ぱくの会」

● 講座 子どもと本の集い2017 「共感を育てる子どもの本ーどうして図書館？ どうして平和？ どうしてアフリカ？ー」

講 師：さくまゆみこ（編集者、翻訳家）
日 時：12月10日（日）午後2時～4時
場 所：吹田市立中央図書館 3階集会室（吹田市出口町）
定 員：50人 参加費：無料 申込み：必要
主 催：吹田子どもの本連絡会

● 資料展示「ドイツの子どもの本の魅力ー翻訳者上田真而子の仕事ー」

上田真而子さんは、『はてしない物語』（ミヒャエル・エンデ）、『あのころはフリードリヒがいた』（ハンス・ペーター・リヒター）などのドイツの子どもの本を翻訳し、日本の子どもの本にも影響を与えてきました。上田さんが大阪府立中央図書館に寄贈された貴重な本を紹介します。入館無料
会 期：開催中～12月28日（木）休館日あり
会 場：大阪府立中央図書館 1階展示コーナー（東大阪市荒本）
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『セブン・レター・ワード 7つの文字の謎』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.87 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は12月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

